

育てたシイタケ 給食に」

羽後高 町へ提供 児童生徒が味わう



羽後町の学校給食に、羽後高校で栽培されたシイタケが提供され、町内の小中学生や高校生が味わった。

食材になったシイタケは4月下旬に生徒が「ほだ木」に植菌して育てた。10月下旬から今月上旬に収穫した一部約12キロを寄贈した。

シイタケは、町内産食材で作る「まるごと給食」のみそ汁の具に使われた。給食は7日に提供され、生徒はあきたこまちに羽後牛などを合わせた「ビビンバ丼」、白菜の漬物と一緒に味わった。



羽後高では8月、町の支援を受けて県内の全日制公立高校で初めて給食が始まった。全校生徒88人のうち希望する67人が利用しており、感謝を伝えようと食材としてシイタケを提供した。

同校では給食当番が盛り付け、生徒たちが舌鼓。3年の藤原優希さんは「自分たちの育てたシイタケが調理され、広く食べてもらいうれしく思っている。給食は普段よりさらにおいしく感じた」と話した。(小林智彦)

(秋田魁新聞 令和4年12月19日(月)より一部抜粋)